

代幾 I 演習 (2005/05/19)

問題 55

複素数全体の集合 C の要素 $x = a + bi, y = c + di$ と実数 e に関して、普通に和 ($x + y = (a + c) + (d + i)i$) と、定数倍 ($ex = (ea) + (eb)i$) を考えると、 C 全体は、実数上の線型空間になっていることを確かめなさい。

(ヒント:線型空間の公理 (8 つある) が、全て成立することを示せばよい)

問題 56

実数係数の二次式全体の集合を $R_2[x] = \{ax^2 + bx + c | a, b, c \in \mathbf{R}\}$ と表すことにする。この時、 $R_2[x]$ の二つの要素 $f = f(x) = ax^2 + bx + c, g = g(x) = ex^2 + fx + g$ と、実数 h に対して、普通に、和 ($f + g = (a + e)x^2 + (b + f)x + (c + g)$) と、定数倍 ($hf = (ha)x^2 + (hb)x + (hc)$) を考えるとき、 $R_2[x]$ が、実数上の線型空間になっていることを確かめなさい。

(ヒント:線型空間の公理 (8 つある) が、全て成立することを示せばよい)

問題 57 複素数全体の集合 C の要素について、次の問に答えなさい。

1. 二つの複素数 $x = 1 + i, y = 2 - i$ と、実数 a, b に関して、もし、 $ax + by = 0$ が成立するならば、実は $a = b = 0$ であることを示せ。
2. 上の問題で、 a, b が複素数でもよければ、そのような複素数の組は $a = b = 0$ 以外にもあることを示せ。(ヒント: 具体的に、そのような a, b を示すだけでよい)。
3. 複素数 $z = 4 + i$ が、実数 c, d と上記の複素数 x, y を用いて $z = cx + dy$ と表現できたときに、この c, d を求めよ。
4. 任意の複素数 z に対して、必ずある実数の組 c, d が存在して、 $z = cx + dy$ と表現できることを示せ。
5. 二つの複素数 x, y が、 $a = b = 0$ 以外の実数に対しては、常に $ax + by \neq 0$ が成立するならば、実は、任意の複素数 z に対して、必ずある実数の組 c, d が存在して、 $z = cx + dy$ と表現できることを示せ。

問題 58 次の行列 A, B とベクトル x について、以下の問に答えなさい。

$$A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 4 \end{pmatrix}, B = \begin{pmatrix} -1 & 0 \\ -2 & 1 \end{pmatrix}, x = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$$

1. Ax を求めなさい。
2. $A + B$ を求めなさい。

3. AB を求めなさい。
4. AB と BA は同じになるだろうか？ 確認してみなさい。
5. $A(Bx)$ と $(AB)x$ をそれぞれ計算してみなさい。
6. A^{-1} を求めなさい。
7. $(AB)^{-1}$ は、 A^{-1} と B^{-1} で表すとどうなるか？

問題 59 二次元の点を、原点を中心に α だけ反時計回りに回転させる行列を R_α とすると、その行列の成分は、次のようになる。

$$R_\alpha = \begin{pmatrix} \cos(\alpha) & -\sin(\alpha) \\ \sin(\alpha) & \cos(\alpha) \end{pmatrix}$$

講義の定義では、 R_α と R_β の積 ($R_\beta R_\alpha$) を、図形的な意味から $R_{\alpha+\beta}$ で定義した。これが、一般的な行列の積の定義と矛盾していないことを示しなさい。

問題 60 空間内で次の条件を満たす直線のパラメータ表示を求めよ。

1. 点 $(1, 2, 3)$ を通り、 $\begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ と平行な直線。

2. 点 $(2, 2, 0)$, $(3, 5, 1)$ を通る直線。

3. 次の二つの平面の交わりとして表される直線。

$$3x - 2y + z = 4, \quad x + z = 2.$$

4. 点 $(3, 3, 2)$ を通り、ベクトル $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ と $\begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$ とに直交する直線。

問題 61 $\mathbf{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 0 \\ -3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \\ 3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{c} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ -2 \\ 2 \end{pmatrix}$, とするとき、次を計算せよ。

1. $2\mathbf{a} - 3\mathbf{b}$,
2. $5\mathbf{a} - 3\mathbf{b} - 4\mathbf{c}$,

3. $-a + 2b - 2c$.

問題 62 $\begin{pmatrix} 2 \\ 3 \\ -1 \end{pmatrix}$ は $\begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix}$ と $\begin{pmatrix} -2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ の線型結合として表すことはできないことを示せ。

問題 63 $a = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$, $b = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $c = \begin{pmatrix} -3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$ とする。

- K^3 の単位ベクトル e_1, e_2, e_3 をそれぞれ a, b, c の線型結合で表せ。
- 上の問の結果を利用して, 次のベクトルを a, b, c の線型結合で表せ。

(a) $\begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ -3 \end{pmatrix}$, (b) $\begin{pmatrix} 0 \\ 3 \\ 2 \end{pmatrix}$, (c) $\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix}$

問題 64 連立一次方程式

$$\begin{cases} 2x + 3y = 5 \\ x + 2y = -2 \end{cases}$$

を解き、その結果を用いて $a_1 = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$, $a_2 = \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \end{pmatrix}$, $a_3 = \begin{pmatrix} 5 \\ -2 \end{pmatrix}$ が線型独立かどうかを調べよ。

問題 65

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 & -1 & 3 & 2 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 2 & 1 & 3 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & -2 \end{pmatrix}$$

とする。 $A = (a_1 \ a_2 \ a_3 \ a_4 \ a_5 \ a_6)$ としたとき次の問に答えよ。

- a_2, a_3, a_5 は線型独立である。
- a_2, a_3, a_5 に a_1, a_4, a_6 のうちどれを付け加えても線型従属になる。

問題 66 K^n の標準基底 e_1, e_2, \dots, e_n は線型独立であることを証明せよ。

問題 67 次を証明せよ。

1. $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ の中に同じベクトルが 2 個以上現れるなら $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ は線型従属である。

2. $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ の中に零ベクトル $\mathbf{0}$ が現れるならば、 $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ は線型従属である。

問題 68 $\mathbf{b}, \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ が与えられたとする。 \mathbf{b} が $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ の線型結合として異なる方法で

$$\mathbf{b} = c_1 \mathbf{a}_1 + c_2 \mathbf{a}_2 + \dots + c_n \mathbf{a}_n$$

$$\mathbf{b} = c'_1 \mathbf{a}_1 + c'_2 \mathbf{a}_2 + \dots + c'_n \mathbf{a}_n$$

と書けたとする。このとき $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n$ は線型従属であることを示せ。

問題 69 次の式を行列とベクトルの積の形で書け。

$$(1) \begin{cases} 4x + 2y + 3z = 5 \\ -x + y + 2z = -3 \end{cases}$$

$$(2) \begin{cases} x + 2y = 2 \\ -x + y = 4 \\ 3x + 5y = 1 \end{cases}$$

$$(3) \begin{cases} 2x + 3z = 1 \\ y + 2z = -1 \end{cases}$$

$$(4) -2x + 3y + z - w = 0.$$

問題 70 $\mathbf{x}, \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3 \in K^m$ とする。次のそれぞれの式を行列 $A = (\mathbf{a}_1 \ \mathbf{a}_2 \ \mathbf{a}_3)$ とベクトルの積の形に書き直せ。

$$(1) \mathbf{x} = \mathbf{a}_1 - \mathbf{a}_2 + 4\mathbf{a}_3$$

$$(2) \mathbf{x} = 2\mathbf{a}_1 + 3\mathbf{a}_2 - \mathbf{a}_3$$

$$(3) \mathbf{x} = -\mathbf{a}_1 + 2\mathbf{a}_3$$

$$(4) \mathbf{x} = \mathbf{0}$$

問題 71

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 2 & -4 & 3 \\ -4 & 0 & 2 & 1 \\ 3 & -2 & -1 & 0 \end{pmatrix}$$

としたとき、次を計算せよ。

$$(1) A \begin{pmatrix} 0 \\ 2 \\ 1 \\ -3 \end{pmatrix}, \quad (2) A \begin{pmatrix} 1 \\ -3 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad (3) A \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}, \quad (4) A \begin{pmatrix} -2 \\ 2 \\ -2 \\ 2 \end{pmatrix}$$